

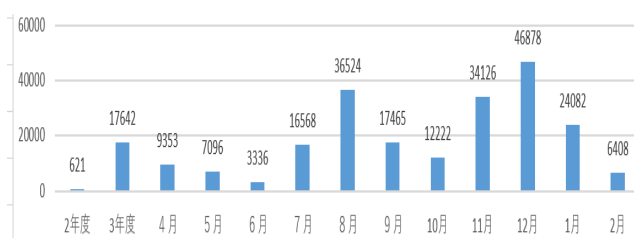
SYOHEI ニュース 令和5年2月号

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

岩手県内の感染者数は、令和5年2月26日現在累計で230,320人（死亡602人）です。2月の新規感染者は6,408人、死亡者は25人です。新規感染者は、昨年6月以来8か月ぶりに月間1万人未満になりそうです。死亡者数も今月に入り急激に減少しています。

県内の月別新型コロナ患者数（R5.2.26現在）

年度	2年度計	3年度計	4年度														
月	2年度	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計			
件数	621	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17465	12222	34126	46878	24082	6408	230320			
死者数	30	47	8	6	5	13	54	30	11	66	149	158	25	602			



感染者のピーク時における傾向の比較

第6波～第8波 4年6月・8月・12月・5年1月

第6波 R4.4月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
比率	22%	18%	12%	17%	14%	8%	5%	2%	2%	1%	0	9353
第7波 R4.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
比率	15%	12%	14%	15%	15%	11%	8%	5%	3%	2%	0	36524
第8波 R4.12月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
比率	15%	15%	10%	14%	16%	10%	7%	5%	5%	3%	0	46878
第8波 R5.1月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	不明	合計
比率	11%	10%	16%	14%	15%	12%	8%	6%	5%	3%	0	24082

昨年4月第6波の感染者の傾向と第7波、第8波の感染者の傾向をデータで比較してみました。年代別では、10歳未満・10代・30代・40代が15%超えの高い水準にあります。第8波1月では20代が初めて15%超えとなりました。

寒い冬はお風呂・温泉が最高ですね！！

奥州市の秘湯 黒滝温泉

奥州市の南玄関、衣川の総合支所から南股小学校方面に南進したところ、のどかな田園地帯の中に「黒滝温泉」があります。その名の由来はここから車で10分ほどの道のりにあり、秘境の趣が漂う「黒滝渓谷」。イワナやヤマメなどの絶好の釣場として知られているほか、春は山菜取り、秋には紅葉狩りと四季折々の自然を満喫できるスポットです。



「肌がつるつるになる」と評判の、天然ラドンが豊富な泉質が自慢の日帰り温泉。「美肌の湯」を求め、地元はもちろん、遠くは気仙沼や一関方面など1日200人以上の入館者があります。

館内にある産直コーナーも人気で、ほぼすべての商品が地元・衣川産という“ならでは”の旬の農産物や加工品も手に入れることができます。

草木の芽吹きが待ち遠しいこれからの季節。春の陽気に誘われるまま。“ぶらり”地元探訪をしてみたいか



がでしょうか。（広報おうしゅう H18年3月創刊号抜粋）

泉質 ナトリウム塩化物硫酸塩泉

（低張性弱アルカリ性高温泉）

場所 衣川上立沢112 電話 0197-52-3150

料金 3時間以下500円 3時間以上800円

定休日 第1、第3月曜日

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年2月27日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

イベントニュース 新型コロナ禍で中止となっていた、祭りが復活します！

1 黒石寺蘇民祭(水沢)・・・1月29日規模縮小して3年ぶり実施

千年以上の歴史があるとされる奇祭「蘇民祭」が1月29日(日)、奥州市の黒石寺(こくせきじ)で行わ



れました。下帯姿の約100人の男衆が「ジャッソー、ジョヤサ」と氣勢を上げながら、水面が凍った川に入水。厳寒の川で身を清めてお堂を巡る「裸参り」を3回繰り返し、無病息災や五穀豊穡を祈りました。



本来は夜通しの祭りですが、今年は規模を縮小しての昼開催。目玉行事の「蘇民袋争奪戦」や「柴燈木登(ひたきのぼり)」などは3年連続中止になりましたが、来年こそ完全復活を願っています。

(1/30 岩手日報ニュース記事等を参照)

2 全日本農はだてのつどい(胆沢)・・・2月11日

米どころ胆沢を象徴する祭り「全日本農はだてのつどい」が2月11日(土)に胆沢野球場特設



会場で行われました。一年の農業の豊作と農業の安全を祈って行われていた年中行事「農はだて」を再興し、日本古来の文化の素晴らしさを見直すことを目的として、平成2年から開催しています。

行事の一つである「庭田植」の再現、厄年連による「囃子組」「つがい踊り」、今年度ユネスコ無形文化遺産に登録された朴ノ木沢念仏剣舞や冬空花火などのイベントが行われ、厳冬の祭りを盛り上げました。

右写真は、岩手日日新聞



3 日高火防災(水沢)・・・4月29日

水沢の春の風物詩、日高火防祭(ひだかひぶせまつり)が4年ぶりに4月29日(土)に開催されます。



同火防祭は町方火消しの祭典として江戸時代以来300年余りの歴史を持っています。明治以降は九つある町組それぞれの音曲を奏でながら巡行する華やかなはやし屋台が呼び物になっています。

今年は縮小開催とし、前夜祭は行わず本祭のみ1日開催となります。4月29日正午から午後8時までで、午後6時から駅前で行い打ちを行い、午後7時からホテルルートイン奥州前で相打ちを行い、午後8時に閉会の予定。



4 江刺甚句まつり(江刺)・・・5月3日～5日

300年の歴史を持つ「岩谷堂火防祭」を市民参加の祭りにした江刺甚句まつりが、5月3日(水)～



5日(金)に開催されます。まつり当日は、42歳と25歳の厄年に当たる「年祝連」が演舞を披露するほか、100人の踊り手が一斉に舞う江刺鹿踊「百鹿大群舞」、約2,000人の市民が町内で江刺甚句を踊る「江刺甚句大パレード」など多彩な催しで町内全体が盛り上がります。

